



第4回大分学習療法研究会 & 育成士勉強会が行われました！



2013年12月7日(土)、大分県中津市のいずみの園様において、大分学習療法研究会と育成士勉強会が行われ、13施設35名の方が参加されました。その様子をお届けいたします。

<プログラム>

- ◆いずみの園 富永理事長ご挨拶
 - ・学習見学
- ◆くもん学習療法センターから育成士の皆様へ
 - ・大竹代表より 勉強会の目的について(ビデオ)
 - ・「実践テキスト2013年度版」改訂・追加のポイント
 - ・全国の“チャレンジ事例”のご紹介
- ◆実践モデル施設から“チャレンジ事例発表”
 - ・DS四季の郷
 - ・いずみの園
 - ・有老ケアマンションひだか
- ◆グループ討議
 - ・事例発表の感想、自施設でのGOOD事例・強み、今後チャレンジしたいこと
- ◆ご案内
 - ・特別試写会“僕がジョンと呼ばれるまで”
 - ・福岡シンポジウムのご案内



◆いずみの園 富永理事長ご挨拶◆

「学習療法は認知症対策の切り札。皆さんにはその救世主になっていただきたい。そのためには成果がもう少し必要。皆で成果を発表しあい、地域認知症対策のアピールをしていきましょう。」と力強いメッセージをいただきました。



◆学習見学◆

いずみの園では、平均介護度4.1。重度の方も含め、20名の方が学習されています。1対1、1対2学習の様子を見学させていただきました。学習者の方は、大勢の見学者にも関わらず集中して学習に取り組んでおられ、すうじ盤30を置き終わった後の数字の音読もしっかりされていました。



●施設の見学もさせていただきました。施設内には昔の道具がたくさん置かれています●



◆くもん学習療法センター大竹代表より◆ 勉強会の目的(ビデオ)

くもん学習療法センターは、2004年の7月に設立されました。当初は「簡単な読み書き・計算と楽しいコミュニケーションがきわめて脳を活性化する」という川島教授の理論を研究し、そのための基本的な実践方法を普及することを事業目標としてスタートしました。そして今、特にこの数年、学習療法そのものの理論の研究だけでなく、くもん学習療法を導入いただいているすべての施設様でしっかりと学習療法の効果を出していただくための実践研究に軸足を移しています。

学習療法の効果をより永続的に持続していくには、どんな工夫や実践をしたらよいか。その学習療法の効果を日常のケア、介護に活かしていただくためにはどんな工夫や実践が必要だろうか、というような実践の中での研究を施設の皆様と進めてまいりました。

導入施設の皆様からお教えいただいた様々なノウハウ、知識、知恵、実践の工夫といったものが私たちの中に

着実に蓄積してまいりました。それを集約して一冊にまとめたものが昨年に提供させていただいた「実践テキスト」と「事例集」です。

すでに多くの施設様では、この実践テキストの内容にチャレンジする活動が始まっているとお聞きしております。そこで2013年下半期には、すべての施設様でこの「実践テキスト」の内容を、どの項目からでもチャレンジしてもらいたいと思っています。

今回の育成士勉強会は、学習療法を認知症の進行の維持・改善にとどまらず、多面的に活かすチャレンジをスタートしていくことを大きな目的として開催させていただきます。



◆『実践テキスト2013年度版』改訂・追加のポイント◆



本日お伝えしたいことは、①実践テキストの改訂点と追記事項②学習療法をもっと活かしていただくために③学習療法を活かすためのチャレンジの3点です。

「実践テキスト2013年度版 改訂・追加のポイント」は、昨年全国で実施された「実践テキスト勉強会」以降の導入施設の育成士の皆様による共有や事例からの学びをまとめ、追加事項や改訂として整理したものです。「実践テキスト」と合わせてご活用ください。



●改訂点・追記事項(抜粋)

「あの方にもっと笑っていただけるのではないかと?」「もっとリハビリに積極的に参加いただけるのではないかと?」「もっと自分らしくいきいき過ごしていただけるのではないかと?」そういった**高齢者(学習者)の方への可能性を信じ、追求しようとする学習スタッフの方々の姿勢も、大切な「可能性の追求」である。**

実践テキストP9「2. 私たちが大切にしたい学習療法における3つの価値観」(1)可能性の追求への追記

「理想的な学習療法スタッフの姿」～心・頭・足

心...学習者(高齢者)を**尊敬**し、その**笑顔と尊敬**を大切にしたい心(姿勢)

頭...学習療法を目指すものと**理論**、手法を深く理解する頭(知識・ノウハウ)

足...学習者(高齢者)を**観察**し、**気づき**を得て小さな変化を見つけようとする足(行動)

事例や研修会、勉強会から**学び**、自分自身や自施設に活かそうとする足(行動)

実践テキストP9「2. 私たちが大切にしたい学習療法における3つの価値観」(2)人こそすべてへの追記

「変化が無いこと、維持すること自体が、奇跡的な事例です！」

実践テキストP17「5. 学習療法の効果」(1)脳機能も改善への追記

学習回数は、週5回月20回が基本

実践テキストP20「1. 学習療法の6つの原則」(6)の改訂

学習療法を活かすとは?

- ①高齢者の方の笑顔に活かす
- ②ご家族の喜び、信頼に活かす
- ③スタッフ(職員)に活かす
- ④施設ケア、経営全体に活かしてほしい
- ⑤地域に活かす

学習療法を活かすための7つのポイント

- ①正しく楽しい学習療法を実践する
- ②目標シートを作成し活用する
- ③支援とコミュニケーションの質を向上させる
- ④月次検討会を活用する
- ⑤日常ケアやケアプランに活かす
- ⑥ご家族の喜びや信頼づくりに活かす
- ⑦地域のネットワーク作りにつなげる

●学習療法を活かすポイントは“点”ではなく“線”です。そのつながりの全体像をわかりやすく表したものが「学習療法を活かすためのサイクル」図です。月次検討会などでご活用ください。

◆施設からの事例発表◆

3施設の皆さまから、施設での取り組み・チャレンジをご発表いただきました。



四季の郷 貝原さん

「初めて聞いた“がんばってみよう！”
目標シートを作成したことで、
より深く利用者を知る

・マイナス発言の多いA氏。「目標を持って学習してもらおう」と一日にメリハリをもって過ごしていただきたい、との思いから「公文することを自覚する」を目標とし取り組んだが、うまくいかなかった。
・目標設定が間違っているのでは・・・と再度職員で話し合いを行った。
・「A氏に幸せな顔をしてほしい」→A氏が日中をとおして嬉しそうにしている時はどんな時だろう・・・→大きな声で「読み」をしている時→声を出して本を読む、読み聞かせをしていただく。
・今まで「できるかなあ」「わからんなあ」が口癖だったA氏。初めて「がんばってみようカナ」といわれた。
・学習療法を通じて、「どういったときに笑うのか」「どんなことを幸せと感じるのか」「そのためには何が必要なのか」等、利用者の気持ちや、今まで生きてきた道のり、これからのことを、より深く考えるようになりました。
・同じ目標を持ち、そこに向かって一緒に歩むことで、更なる信頼関係、これは利用者、職員間だけでなく、利用者同士、職員同士の関係もできていくのだと思います。



いずみの園 岡市さん

「学習療法からの繋がり」
～6年間の歩みと成果について～

・MMSEとFABの定期評価。時間や場所の見当識や口頭指示などの項目がマイナスになったが、この結果から、学習者に対して見当識を意識した声掛けや働きかけを行うように心がけています。
・ボランティアの学習療法スタッフがいらっしゃる。ボランティアの方と接することで、(施設の)近所の話や昔の話を伺うことができ、職員も勉強になります。
・11月に行った学習療法記念式典で、ある学習者の方が、マイクをくださいと言われ、「今日は、このような立派な催しをして下さいまして、ありがとうございます。今後も一生懸命勉強します。よろしく願います。」と力強い言葉を述べられた。普段は物静かな方だけに、職員は感激しました。
・目標シート・正しい学習療法にチャレンジ。「その人らしく生活していけるために」今後スタッフ同士で意見を出し合い、スタッフ内で周知していきたいです。



ケアセンターひだか 河津さん

「くもんでホスピタリティ」

・ホスピタリティとは「こころよりもてなす」「喜び、感動を与える」という意味。みんなと一緒にでは当然のサービスであると思われて、感動は起きません。
・「あなただけよ」「あなた専用」が感動や喜びを与えられます。
笑顔を施設全体に広げるために、ご利用者ひとり一人個人ごとのホスピタリティを考えて取り組んでいます。
・例えば、こんなことを取り組んでいます。
ーくもんカードを作って、学習するたびにほんこを押す
ーカードが一杯になったら、ほしい物をプレゼントをする
ーMy筆記具を用意(筆箱、鉛筆、消しゴム)
ー学習者の好きな事を応援する(編み物、クイズなど)
・「人こそすべて」、ホスピタリティを意識してかかると、笑顔や意欲が出てきて、だんだんお元気になってこられます。

◆グループ討議◆

6つのグループに分かれ、自施設の強みやチャレンジについてグループ討議を行いました。

～グループ討議の感想～

⇒色々な悩みや今こんなことに新しく取り組んでいる話を聞いて、大変参考になった。

⇒導入期間の浅い長いはそれぞれ違いますが、どの事業所でも思いは一つ。

「利用者の方の為に！！」ということは皆同じだと感じました。

⇒グループ討議をきっかけに、育成士同士つながりをもっていけると思います。

⇒グループの皆さまの本音が聞けてうれしかったです。

⇒自施設の強み、弱みを発見し、シェアができた。



◆参加者アンケートより◆

⇒原点に立ち返ることが重要であると再確認できました。

⇒実践テキスト(特に赤字箇所)を徹底して行えるようにならなければと強く感じました。何のために学習療法を行っているのか、再度学習療法に関わる全てのスタッフに確認しようと思います。

⇒学習療法実践者だからその声や実際の成果をもっともっと声を大きく伝えていかなければならないと思います。それは、私たちの専門職としての質を上げる、社会に役割を認知してもらえることにもつながると思います。

⇒学習療法を行っていても変化がない利用者様がいたのですが、お話を聞いて、変化がないことはすごいことだということを知り、安心しました。

●学習療法を活かすために「〇〇〇〇〇」にチャレンジ！●

◎「手順の見直し」にチャレンジ！

◎「基礎の見直し」にチャレンジ！

◎「だれかの為に、目標をしっかりと」にチャレンジ！

◎「利用者様の笑顔・やる気」にチャレンジ！



★番外編 懇親会★



育成士勉強会終了後、会場を移動し懇親会を実施しました。これが目的の参加者も多数おられ(!?) 「最近のよかった出来事」発表、「これからチャレンジしてみたいこと」発表など、楽しい時間を過ごしました。ある施設長からは、「福岡シンポでは、自施設から2つの事例発表をします！」との宣言が!!

是非、大分の取り組みやチャレンジを全国に発信しましょう。発表することが施設のケアや学習療法を考え、見直すよい機会にもなります。

次回の「大分学習療法研究会」の集まりは、2月12日に大分市で実施します。「大分学習療法研究会」は、学習療法を導入・実践されている施設の皆さまが集まり、学び合う交流の場です。まだ参加されたことのない施設の皆さまも是非ご参加ください。同じ志を持った多くの仲間と出会うことができます。

最後に、今回はいずみの園様には快く会場をご提供いただきました。富永理事長、岩崎センター長はじめ、職員の方々にはwelcomeしていただき、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

大分学習療法研究会 会長より



◎第4回研究会に思うこと◎

設立から4回目の研究会を迎え、回を重ねる度に会員の方々の意欲の強さが増しているように感じます。

今回は、中津の「いずみの園」様の研修室をお借りして開催することになりました。開催前にいただいた、富永理事長の励ましのお言葉に、「正しい学習療法を早く全県に伝えなくては」との思いはさらに強くなりました。

また、事例発表のあとのグループワークでは、理事のメンバーも分かれてテーブルに着き、オブザーバーとして参加しました。理事が進行役を務めることで、グループの話し合いもかなり盛り上がりつつあります。

スタートしたばかりの大分学習療法研究会、まずは理事の施設めぐりから始めて、大分全県の導入施設やその地域を知ること、そして学習療法をツールとしたネットワークづくりを目標に、益々研究会を盛り上げていきたいと思いました。

(大分学習療法研究会会長
グランドホーム古国府 施設長 首藤毅志)

大分の同志のみなさん、まっちょるけん!

v(^ ^)v



学習療法シンポジウムin福岡

日時：2014年5月11日(日)

場所：福岡国際会議場

“参加型” “交流型” のシンポジウムです。
ぜひ自施設の取り組みやチャレンジをご発表ください!

エントリー受付中!(締切12月25日)

